

ある。原先生の長い間の学問的集積の一部が立派に実を結び、心からおめでとくと申し上げたい。
(大橋広好)

□倉田 悟・中池敏之(編):日本のシダ植物図鑑 3 728 pp. 地図 1. 1983. 東京大学出版会, 東京. ¥12,000. 待望の第 3 巻が出た。大要は巻一, 二と同じである。100 種について第 1 頁に写真と主な解説, 第 2 頁に全体の線画と要点, 第 3 頁に分布図, 第 4 頁以下には 5 万分の一の地図を四分してその区割に 1 点を打つ式で, ミゾシダ, ジュウモンシダ, イノデ, ゲジゲジシダ, ホシダ, ヤワランシダ等は 15 ページを越えた産地が挙げられている。これは何でもないようだが大変なことである。ホシダでは密に産地が並ぶのに, イワヤシダでは甚だしく疎在しているのは何か原因がありそうだ。一つ注文がある。それは細かく産地を挙げながら海拔高に触れていない。これはシダでは余計に必要と思う。分布地図にもないし, 産地はこの頃殆んど市か町になってしまったのでシダの産地としては不適當に思われるから, 海拔高をざっと付記してほしいと考えるのは抄録者だけではないと思う。今後の続巻に期待するからなおさらである。
(前川文夫)

□青島清雄・椿 啓介・三浦宏一郎(編):菌類研究法 423 pp. 1983. 共立出版, 東京. ¥15,000. 菌類の研究法としては, これまでに自然観察を中心としたもの, あるいは応用微生物学の一環として土壤微生物, 植物病理学, 医真菌学, 醗酵微生物, 食品衛生などの諸分野での実習書が出版されているが, 本書のように菌学に関する基礎から応用, ことに自然における各種生態系を対象とした研究法まで編集されたものは例をみないであろう。内容としては, まず菌類を取扱う基本操作が述べられた後, 第 2 部としてこれに関連する微生物実験のための機器が紹介されている。本書の中心は第 3 部の各論で, 菌類全般について分類群, 生態群別に採集・分離・培養・保存の方法を図, 写真を豊富に配して, それぞれの分野の専門家が分担執筆している。扱われている対象は, 変形菌類, 水生菌類, 海生菌類, 土壤生菌類, 糞生菌類, 落葉生菌類, 盤菌類, 異担子菌類, 軟質担子菌類, 硬質担子菌類, 植物寄生菌類, 菌根菌類, 菌寄生菌類, 人体寄生菌類, 高等動物寄生菌類, 水産動物寄生菌類, 昆虫寄生菌類, 微小動物寄生菌類, 被服その他生活関連の菌類などと実に広範多岐にわたっている。採集・分離された菌類の利用という面では, 第 4 部に大量培養を, 第 5 部にライフサイエンスとして発展の著しい遺伝子導入を解説している。最後に菌類に関する行政事項が一括されているのは本書の利用者にとって大変便利であろう。記述は一般に平易であり関連文献も詳しく, 研究あるいは実務のための座右の書として情報を得るには恰好の研究書といえる。
(宇田川俊一)